

「やきもの研究から見た中世の乙訓」

橋本 久和 (同志社大学)



1 やきもの (陶磁器) 研究と考古学

1970 年以前 大和の諸寺院調査で出土した土器類が研究対象となる。

1970 年以後 都市再開発 (京都・博多・江戸・堺など)、大規模中世遺跡の調査が活発化する (福山市草戸千軒町遺跡・福井市一乗谷朝倉氏遺跡など)。

2000 年前後 中世都市研究の活発化、学際的研究が活発となる。

現在 大規模開発の終息と研究者の世代交代期

2 考古資料としてのやきもの

分類① (生産地)

在地土器	生産地周辺に供給	瓦器椀・土師器皿
広域流通品	生産地から広域 (遠方) に供給される陶器	常滑・備前焼
貿易陶磁器	中国・東南アジアから輸入される陶磁器	

分類② (使用形態)

供膳具	日常什器 (椀・皿)
貯蔵具	壺・甕
煮炊具	鍋・釜
調理具	鉢 <u>個別ではなく、様式 (セット関係) 論的な検討が重要</u>

3 淀川上流域の土器づくり

a 楠葉の御牧の土器づくり

『梁塵秘抄』嘉応元年 (1169) 後白河法皇編「楠葉の御牧の土器づくり…」
『執政所抄』元永元年 (1118) ～保安 2 年 (1121) 「黒器、…楠葉牧に、」
『類聚雑要抄』久安 2 年 (1146) 「大土器三十口…楠葉御園作手所進」
『石清水文書』徳治 2 年 (1307) 「楠葉郷民は…土器づくりを業とする」
[2 タイプの土器づくり]

①朝廷・摂関家に従属する、②朝廷・摂関家に従属しない土器づくり工人。

b 楠葉東遺跡・楠葉野田遺跡の調査

1970～1980 年代に実施され窯跡などが検出され、瓦器椀・瓦質土器などが出土している (報告書未刊)。

c 乙訓型土師器皿

1998～2001 年、京都迎賓館の調査で多量に出土し、注目される。

粘土板結合法 (左手手法の改良型) で製作される。

瓦器椀・土師器皿はともに粘土板結合法で製作される。

4 淀川上流域・乙訓の領域

a 中世土器の成立

11 世紀後半、製作技法に強い共通性がある瓦器椀などが出現する。
橋本久和 1980 「瓦器椀の地域色と編年」『上牧遺跡発掘調査報告書』

b 楠葉型瓦器椀の分布域

北河内 (枚方)、嶋上 (高槻・島本)、乙訓に分布。
従来: 楠葉で生産された瓦器椀が供給されたとみる。
最近: より小規模な地域 (郡単位程度) で生産・消費された可能性がある。

c 乙訓型土師器皿分布域

淀川流域に分布。瓦器椀とは胎土が異なる = 瓦器椀とは別の土器づくり。

d 土器からみた活動範囲・生活圏 (領域)

旧郡程度を供給範囲とする中世土器が成立。摂関家との従属関係は薄いか。

5 京都外港域としての乙訓

a 「巨大都市複合体」としての京都

京都を中心にして、周囲に衛星都市群が有機的に結合している。
山田邦和 1998 「中世都市京都の変容」『中世都市研究 5』

b 京都への求心的な物資流通

西国の国府・荘園の港 (流通拠点) ⇒瀬戸内航路⇒尼崎市大物→神崎川→江口→淀川→三川合流点付近 (山崎狭隘部)
淀・鳥羽 = 諸物資 (米・塩・特産品) の受容地として機能する

c 物資集散地遺跡

三川 (木津川・宇治川・桂川) 合流点付近の八幡市木津川河床遺跡では、西国・東海地方の土器類などが多量に出土する。

6 乙訓地域の中世

a 畿内の一般的な中世村落の様相と大きく変わることはない。

b 市域北部の井ノ内・今里遺跡出土遺物の特異性

井ノ内遺跡 小型足釜 石鍋

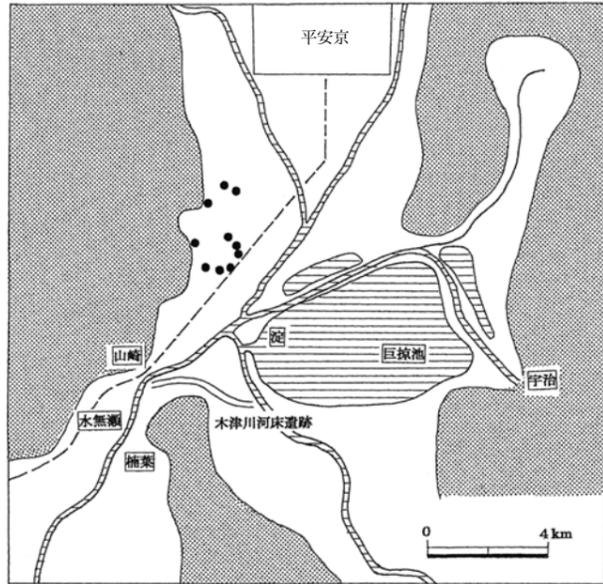
今里遺跡 中国製陶器盤 円板状土製品

港湾遺跡に目立つもので、物資集散に関わる場あるいは集団が存在した。

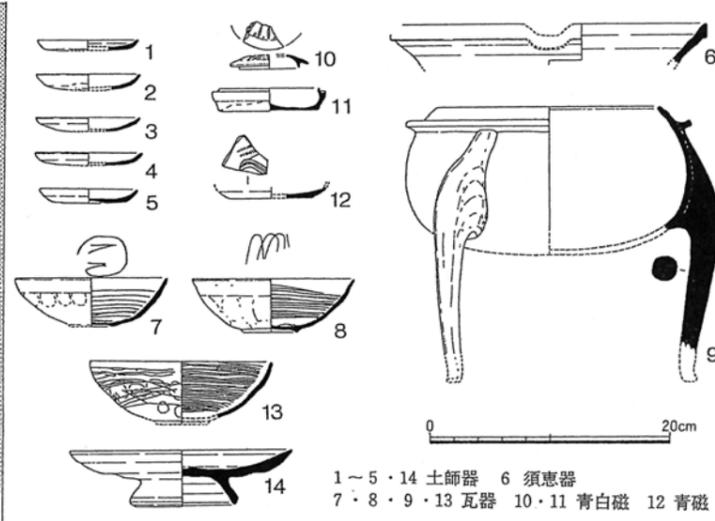
c 乙訓型土師器皿の京都での出土は、単なる荘園領主への貢納品ではなく、商品として販売されたものではないか。

d 宗教勢力のネットワーク

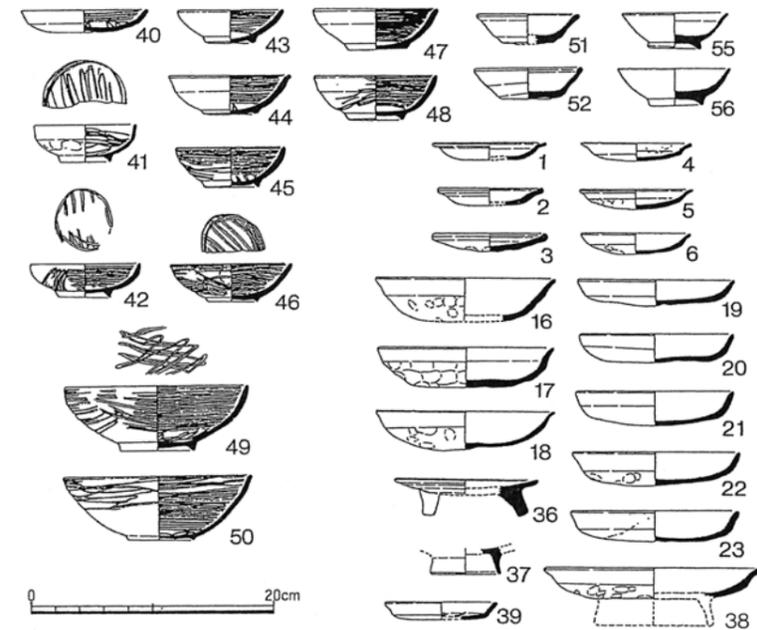
長法寺 瓦器小椀 他地域の出土例: 河内長野市金剛寺 小松市浄水寺



▲1 中世の乙訓周辺の地形

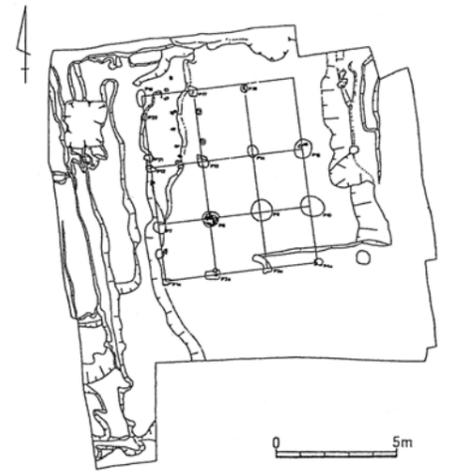


▲2 友岡遺跡の土器 (1/6)

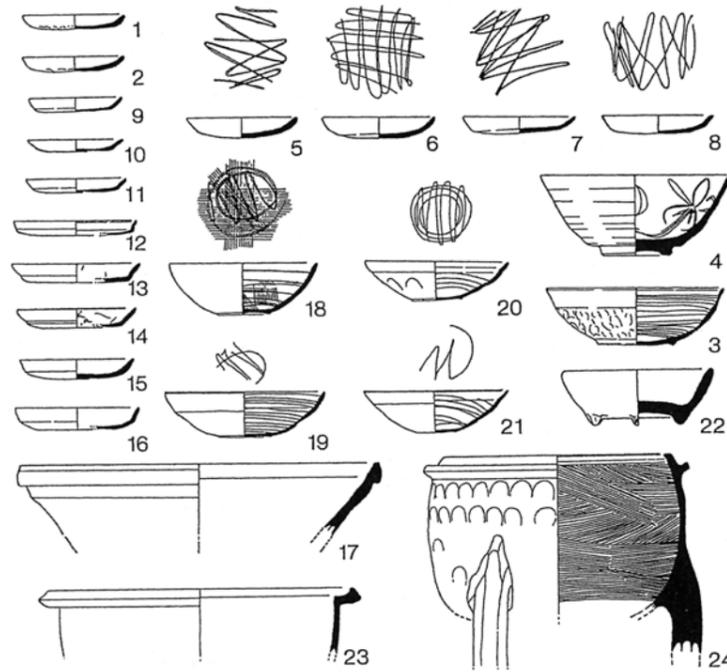


1~6・16~23・36~38 土師器 39~50 瓦器 51・52 須恵器 55・56 灰釉陶器

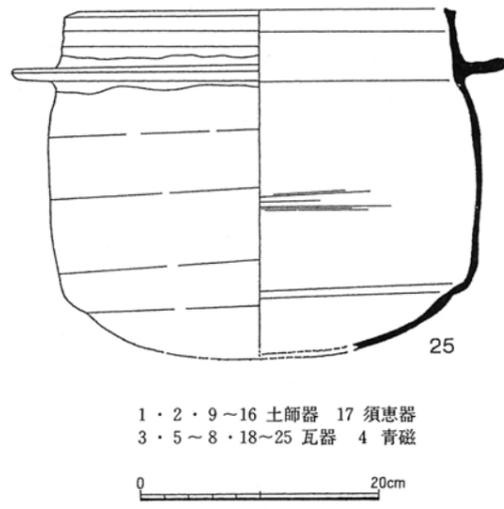
▲6 長法寺第2次調査の遺物 (1/6)



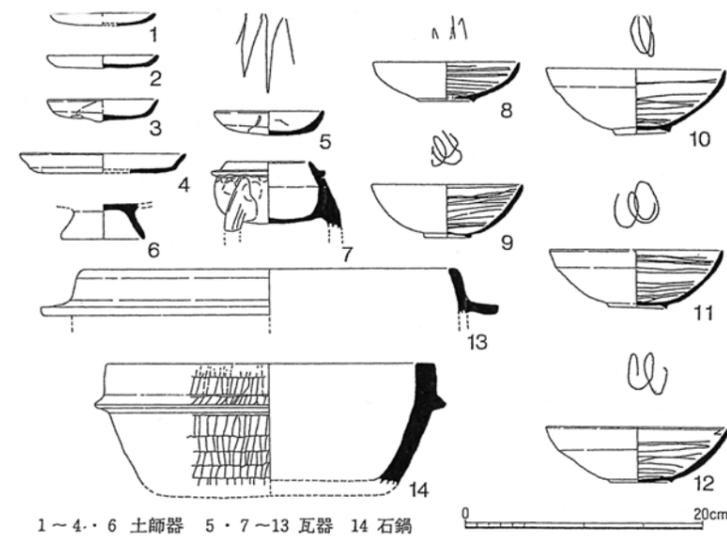
▲7 長法寺の中層遺構 (1/300)



▲3 神足遺跡の遺物 (1/6)



▲5 伊賀寺遺跡 R70 地点の遺物 (1/6)



▲4 井ノ内遺跡 R230 地点井戸の遺物 (1/6)

	大和型	和泉型	橘葉型	土師器皿	東播系須恵器鉢
I 1					
I 2					
II 1					
II 2					
II 3					
III 1					
III 2					
III 3					
III 4					
IV 1					
IV 2					

▲8 瓦器碗 土師器皿・東播系須恵器鉢の編年